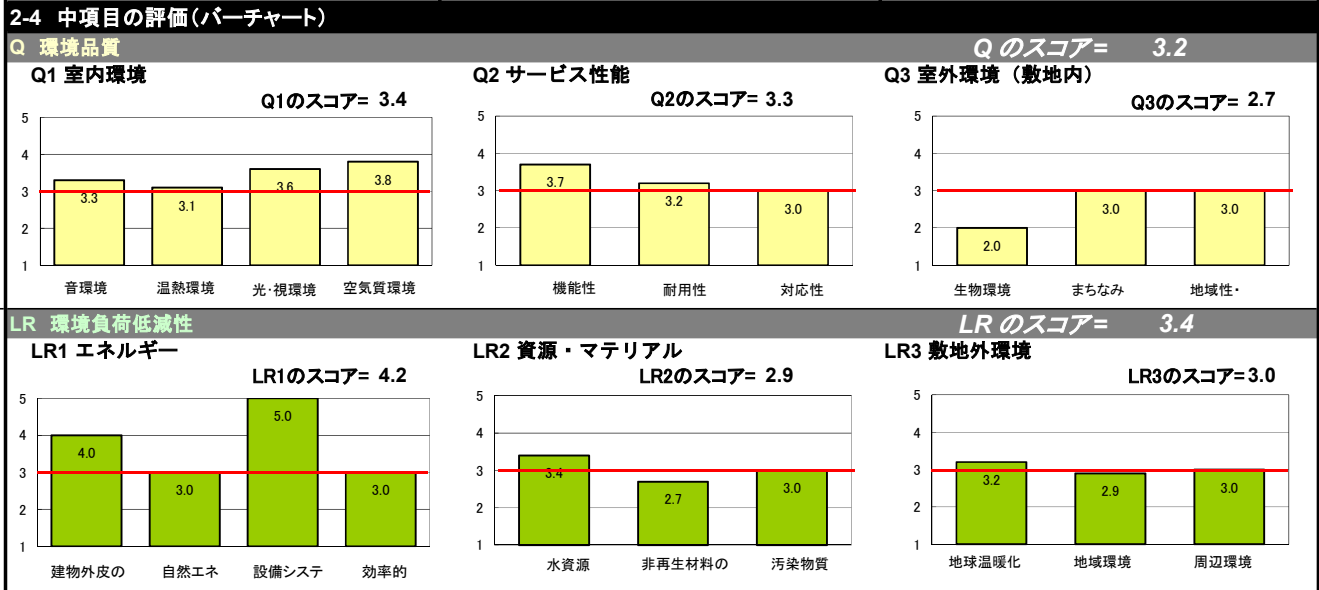
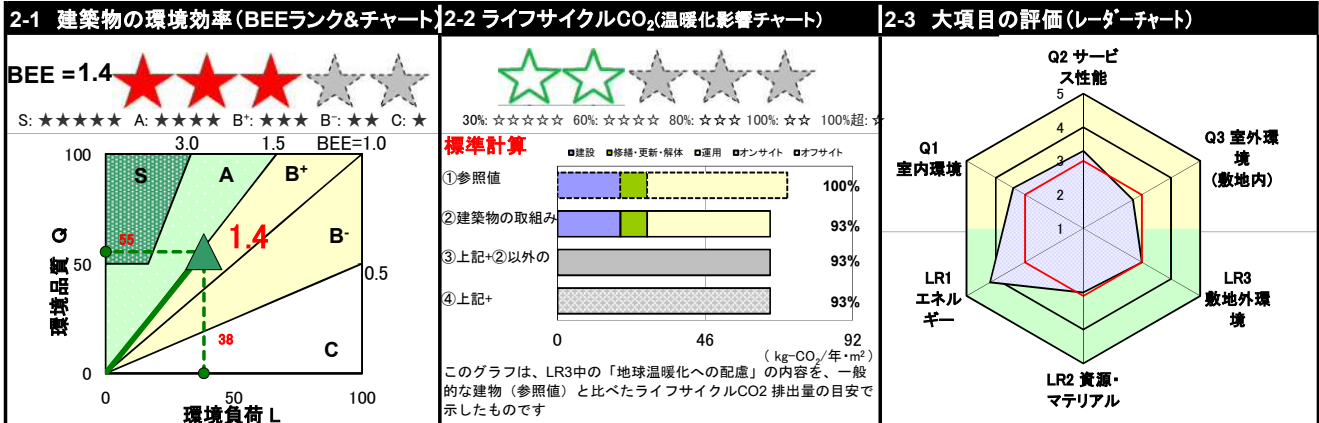


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)浜松市天竜川計画 新築工事	階数	10階
建設地	静岡県浜松市東区和田町字野下70	構造	RC造
用途地域	都市計画区域内,市街化区域	平均居住人員	120 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2022年11月15日
敷地面積	1,976 m ²	作成者	加藤 光彦
建築面積	630 m ²	確認日	2022年11月21日
延床面積	4,575 m ²	確認者	加藤 光彦



3 設計上の配慮事項

総合	その他
緑地を適度に設けてまちなみや景観に配慮し、外皮等級・一次エネルギー等級4を満たし環境配慮致しました。	
Q1 室内環境 F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用し、化学汚染物質による空気質汚染を回避しています。	Q3 室外環境(敷地内) 緑地を適度に設けてまちなみや景観に配慮しています。
LR1 エネルギー 外皮性能を等級4仕様とし、熱負荷抑制へ配慮しています。設備に関してBEI=0.84とし、高効率設備の導入し、環境負荷への配慮をしています。	LR3 敷地外環境 LED照明を採用して設備システムの高効率化を図っています。敷地内に十分な駐車場、駐輪場を設けています。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)浜松市天竜川計画 新築工事	BEE	1.4	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.7 /5		ふつつ			
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9 /5		がんばろう			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.1 /5		ふつつ			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.9 /5		がんばろう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上		ふつつ 3 点以上	
			がんばろう 3 点未満			

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目					
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。							
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		得点		3.7			
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ②カーテン・庇による昼光制御 ④タイル貼りにすることで耐用年数が40年となります。	Q-1	2	2.1	2.2	①	外皮性能
		Q-1	3	3.1	3.1, 3.2	②	昼光利用設備
				3.2	3.2, 1	③	昼光制御
		Q-2	2	2.2	2.2, 1	④	躯体材料の耐用年数
				2.2, 2	2.2, 3	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔
			2.2, 3	2.2, 4	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
			2.2, 4	2.2, 5	④	空調換気ダクトの更新必要間隔	
			2.2, 5	2.2, 6	④	空調・給排水配管の更新必要間隔	
			2.2, 6	2.2, 6	④	主要設備機器の更新必要間隔	
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
			3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦十分な断熱材を設け等級4の基準値を確保しています。 ⑨LED照明等、高効率設備を積極的に導入しています。	LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制
			2			⑧	自然エネルギー利用
			3			⑨	設備システムの高効率化
			4	4.1		⑩	モニタリング
				4.2		⑩	運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節湯効果の高い水栓を採用しています。	LR-2	1	1.1		⑪	節水
				1.2	1.2, 1	⑪	雨水利用システム導入の有無
					1.2, 2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無
			2	2.1		⑫	材料使用量の削減
				2.2		⑫	既存建築躯体等の継続使用
				2.3		⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用
				2.4		⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
				2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材
				2.6		⑫	部材の再利用可能性向上への取組み
			3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用
				3.2	3.2, 1	⑬	消火剤
				3.2, 2	3.2, 2	⑬	断熱材
				3.2, 3	3.2, 3	⑬	冷媒
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭外皮・一次エネともに等級4の基準値を満たしています。	LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮
			2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点		2.9			
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰更新必要間隔の長い配管を採用しています。	Q-2	2	2.1	2.1, 1	⑯	耐震性
				2.1, 2	2.1, 2	⑯	免震・制振性能
				2.4	2.4, 1	⑰	空調・換気設備
				2.4, 2	2.4, 2	⑰	給排水・衛生設備
				2.4, 3	2.4, 3	⑰	電気設備
			2.4, 4	2.4, 4	⑰	機械・配管支持方法	
			2.4, 5	2.4, 5	⑰	通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点		3.1			
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳階高2.9m以上とし、空間にゆとりがあります。	Q-2	1	1.1	1.1, 3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画
			3	3.1	3.1, 1	⑲	階高のゆとり
					3.1, 2	⑲	空間の形状・自由さ
	■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)	Q-3	3	3.1		㉑	地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点		2.9			
	■室外環境(敷地内)対策 (②生物環境の保全と創出/③まちなみ・景観への配慮/④敷地内温熱環境の向上) ②ブロックではなく、格子フェンスを採用することで防犯、まわりからの景観に配慮しています。	Q-3	1			②	生物環境の保全と創出
			2			③	まちなみ景観への配慮
			3	3.2		④	敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮敷地外に影響を及ぼさないよう、外部に漏れる照明を点滅させたり、また広告塔照明を設けたりしません。	LR-2	2	2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材
		LR-3	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善